

いて(今村明恒 岸上冬彦)

奥丹後半島の地形發達史(多田文男)

○富士の地理と地質 石原初太郎 九月 古今書院 定價四

圓二十錢

○朝鮮鐵床調査要報 第四冊ノ一 八月 朝鮮總督府地質調

査所

慶尙南道統營郡光道面竹林里だいあすばーあ鐵床調査報文

(木野崎吉郎 田村龜太郎)

○國立北京大學地質研究會刊 第三期 七月

中國北部水平動所成之構造(翁文灝)

China in the Ordovician Period (A. W. Grabau)

中國沿海地帶之地文變遷(黃汲清)

北京西山輝綠岩之研究(朱森 黃汲清)

北京西山周口店花崗岩之研究 楊曾威)

湖南郴縣瑤林地質(朱森)

北京西山楊家屯地層之考查(楊曾威 李春昱 黃汲清 朱森)

熱河朝陽縣北票興隆溝及楊樹溝一帶地質報告(朱森 楊曾

威 黃汲清 李春昱)

山東地質旅行報告(朱森 李春昱 楊曾威 黃汲清)

撫順煤礦考查述略(張子烈)

○The Pressure of Population in Japan (John E.

Orchard) Geogr. Review XVIII, 3, July, 1928.

○地理學評論 第四卷九號 九月

我邦に於ける氣候分類に就きて(福井英一郎)

支那の農業經濟地理(佐々木彦一郎)

樺太入移民の經濟地理學的考察(上)(武見芳二)

○東洋學藝雜誌 第四十四卷九號 九月

日本産石炭の構造に就て(保井ユウ)

信濃中部第三紀末より第四紀末に亘る地殼運動(本間不二

男)

○鹿児島縣博物調査 第三輯 八月 鹿児島縣教育調査會

トカラハブとエラブウナギ(永井龜彦)

第六章 寶島、小寶島の地形、地質及び生物——附錄

一 硫黃島の地形につきて)

○昭和三年特別大演習地方圖(十萬分ノ一)三色刷(主に盛岡

黒澤尻間の北上川西方地域) 九月 陸地測量部 二〇錢

○昭和三年特別大演習地圖(五萬分ノ一) 二葉(區域前項の

地方圖に略同じ) 九月 陸地測量部 四五錢

雜報

○北京及直隸省の改稱

支那の爭亂先づ一段落つき國民軍の北京入城によつて全支那統一の緒に就き其の一步として、六月廿日國民黨中央政治會議で北京を北平に、直隸省を河北省に改め、天津を特別市となす事を議決した。

此等の改名は歴史的に關係あるもので河北の名が歴史に表はれたのは、遠く唐時代に遡る。讀史方輿紀要に曰く。唐分十道此爲河北道、天寶以後強藩往往竊據焉。(中略)宋仍爲河

北路、後又分河北爲東西路。最後建燕山路而宋以亡金初亦分河北爲東西路、廢王亮定都于燕、因改置中都等路蒙古初置燕京路至元四年定都于此改大都置中書省統山東西及河北地。明洪武九年置北平等處承宣布政使司。永樂元年建北京十八年始定都焉改布政司爲直隸正統六年定爲京師統府八州二屬州十七縣一百十六。とある。其後清朝は順治元年世祖章皇帝北京に都して直隸とし民國以來引續き今日迄襲名したが都を南京に選したので、直隸(直隸とは都に隸屬するの義)といふ文字は不合理であるから元の河北省に改變製用した事は明である。次に北京を北平とした事について言へば之もやはり歴史的地名に歸つたので西漢時代にはこの邊を中山國北平縣と稱し、東漢晉時代には冀州中山國北平縣と云ひ北魏には定州北平郡北平縣宋時代には河北西路中山府北平縣といふ文字で表はされ、明の時に今の北京の地を北平府と改めた(それ以前はいろんな名稱で呼ばれてゐた) 讀史方輿紀要順天府の欄を見るに明初曰北平府永樂初建北京七年改北平爲順天府今領州五縣二十二とある。而して南京に對して北京としたものであるから今度都を南京に建て全支那の中央政府とする上は元の中央政府所在地名たる北京の名を除き古の北平に歸らしめた意味が明になる。(吉田)

○濟州島の烽燧

烽燧は李朝時代の遺物である。濟州島には四周に其海に面した小丘の頂上には、此烽臺の遺跡があり古老の談によれば今より百年前迄烽火を擧げてゐたとのこ

とである。本島には約六十數ヶ所の要地に煙臺を設け之を直烽(二十五)と間烽(三十八)に分けて夫々防員を置き五日を以つて輪番とし。延人員は實に多數であつた。勿論烽燧は最も幼稚備前の制度であり、かゝる邊僻の孤島では常に外敵の侵入に備へる必要があつた。外敵と云へば日本、支那兩邦よりの侵害奪掠もあり、朝鮮本土よりの海賊の襲來もあつた。本土の方も李朝時代には燧所は七百里程あつたらしい。日本書紀にも天智天皇の御宇、對馬、壹岐、筑紫國に防と烽と置くところは防は水城で烽は即ち烽燧の義である。其濫觴は古く支那にあり古書にも散見され支那より韓土を経て、我邦にも傳來したものでらしい。烽は邦語でのろし、又ほとぶひと云ひ廣く、戰術學の合圖にも應用された。烽燧は烽戍、烽析、烽堡、烽營、狼烽、狼火、狼煙とも云ひ史記漢書にも用ひられてゐる。濟州島も此制度をあまり重大視し過ぎ男子は防員となるを榮譽としたる爲農耕の遲滞を來し其他商工業の發達を妨げし弊害は實に絶大のものと云ふべく歴史上興味多きこと、思ふ。現在本島に於ては男子は徒食する者多く女子は之に反し海女として遠く出稼し、又農業に従事しよく働くより看れば尙此感を深くするものである。(原口)

○岡山縣津山四近の第三紀アンプリナ産地

津山町の西北西三里にある昔田那鄉村河本(コーモト)の福岡田谷(ウョーダニ)の第三紀含礫砂岩から大人拳大で貝の厚いアンプリナ(Ampulina)の出ることは嘗て岡山縣津山町に

於ける地球學團第一回臨地研究會記事(地球第六卷第六號四三〇頁)に書いた。この化石が津山第三紀層の一標準層を示すに足るものであると其の當時考へたのであつたが、既知の産地は上述の福岡田谷の一つしかなかつた。昨昭和二年五月因備南線の鐵道工事中に津山町の北東約三里の苫田郡神庭村(カンバムラ)綾部の荒神谷から同じアンプリナが出たことを津山在任大阪毎日新聞社通信所の國政輝郎君から通信され且つ其の標品を贈られた。是に於て東西三里半を隔つたところから同じ物が出て愈々第三紀層最下部の標準になる豫望を深めた。其の後京都帝國大學地質學教室の竹山俊雄君が河本の北一里餘の小田村塚谷の吉井川に近く古生層に接した第三紀最下層からアンプリナの産することを確めた。今年になつて岡山市の浦上宗衛君の通信によると津山町北端の實科女學校の敷地からアンプリナが二個出たといふことである。以上其の産地は四箇所となり何れも古生層に接した第三紀層中から出て居り殊に津山町を除いた他の三箇所は地形上の盆地をなす所謂津山盆地の北縁に沿つた處である。津山四近の第三紀層は著しい覆蔽をして古い島嶼の間に沈積したもので古い地層に接した第三紀層の部分が必要しも第三紀層の最下部であるといふことは出来ないが、他の含化石層に對する層位的關係からアンプリナ層は少くとも津山四近では第三紀最下部層であるといひ得る。因に云ふ、嘗て述べた様にアンプリナ層からは他の具化石をも産する。(ナカヤマ)

○南洋パルマス島和蘭領に確定す

蘭領セレンス島及菲律賓群島中のミンダナオ島の中に位する、パルマス(Palmas)島の所屬に關しては一八九九年以來米蘭兩國間に紛議を醸し終に一九二六年兩國間の合意成立し海牙常設仲裁裁判所の審議を受くることとなりたる處、本年四月四日附を以て同裁判所瑞西判事マクス・フーベルは該島が蘭國領土に屬するものなる旨の裁定を與へた。パルマス島は一名ミアンガス(Miangas)島と稱し、蘭領東印度の最北端にありて、米領ミンダナオ島ダバオ灣を南に距る近々十二哩にして住民は約六百四十人、其の内約百人はミンダナオ土人なるが何れも蘭領タラウチ島の方言を使用して居る。(水路要報に據る)

○英國の石油井

歐洲大戰の晩年にイギリス政府は英國内に油田を發見することに務めたが不幸にして成功を見なかつた。唯其の當時試掘された十一個の鑿井中デルビシヤイアのハードストフト(Hardstoft)及びエナンバラに近いダー・シューエン(The Darcy Well)に於ける二つだけは技術上有望な結果を見た爾來見るべきの發達をせぬ爲め英國に於ける石油採取の興味が薄らいで、一九一九年五月二十七日に出來上つて其の後引續いて僅かではあるが産額を擧げてゐるハードストフト第一號井のあることは一般に注意されない。この油井は鑿井以來昨年末までに二千五百噸即ち約一万七千五百バレルの石油があつた。一日平均にすれば六バレル弱である此の石油は良質で多くの點で最良のペンシルヴァニア原油に等

しい。比重は〇・八二三でハックフオードの分析に據ると石油を精製するとガソリン七%五、燈油三九%、瓦斯揮發油二〇%、機油三〇%五、硫黄〇%二六及び石蠟三%となる。色は暗褐色で緑の螢光あり、凝固點華氏零度、華氏百度に於ける粘性レッドウッド四八秒である。ハードストフト油はベンシルグアニア原油と同じく機油分に富んでゐるから凝縮減磨用に適する、この油井はベジニン系の副背斜の上に位置する、即ち北西―南東に走る褶曲上の局部的穹窿部にある。鑿井は主要石灰岩の最上部を成す砂質石灰岩中を三千七十呎穿つたもので、油座の精確な位置は確定してゐない。ハードストフトの石油に關する興味はウエード博士が近頃この井戸及び其後掘られた他の二つの油井に就て本年四月三日に石油工業者協會で讀んだ論文に據つて喚び覺まされた。油井はデボンシャイア公の所有である。ハードストフト第二號の掘鑿は一九二四年五月十六日に開始された、其の位置は一號井の西方約六百呎にあつて三千二百二十五呎まで進んだが七百六十呎で良き出油の徴候と千六百二十呎の處で氣壓三百七十ポンドの瓦斯が二萬立方呎出たに過ぎなかつた。この井戸は遂に水に取られた。水嵩は二千八百尺の深さに及び、汲み上げることが出来ず、一九二五年三月二十四日に放棄された。第三號井は第一號井の北東六百呎の地點に選まれ一九二五年八月五日に着手した結果は二號井の如く不成功であつた。即ち深さは二號井よりも深く三千八百二十五呎に達したが熔岩層に當つて一九二六年六月八日に放棄された。此の三號井で

は千九百呎及千九百七十八呎で石油の徴候があり、千八百十二呎で瓦斯の徴候があつた。此の地方の一般の地質構造は比較的良く決定されてゐることから見れば地下の構造は斷層の爲めに擾亂されて複雑なものになつてゐるのであらう。兎も角此の地方で油井は失敗してもこの三油井は英國で石油を探究する者の參考となるであらう。(ネーチユア一九二八年五月二十六日)

○ヴオルガ舟運現況

現今ヴオルガ河の舟運はヴオルガ國營汽船の手によりて經營せられ、廣く同河水系沿邊各地間の運輸を維持して居る、本年航行期中に於て、石油製品四三五六、〇〇〇噸、木材二、四〇〇、〇〇〇噸、其他各種貨物四、〇〇〇、〇〇〇噸旅客約八五〇〇、〇〇〇人の輸送を豫定したが、原油、鹽、木材の輸送申込は既に豫定數量を凌駕して居る、元來木材の輸送は運賃率高きため利用されざりしを以て今期より五%乃至一三%を低下せり、ニシモノヴエロドの埠頭にはコンヴェイト式荷取機を備へ、多く魚の貨物船にも積卸機を裝置し、冷蔵庫船を新設して沿岸一帶の魚類肉類鳥卵果物等の貨物運送に新機軸を出すことゝなれり。

旅客輸送についても夏期の休暇期間には療養旅客一般労働者の便宜をばかり安價なる食事浴槽、圖書室、ラヂオ等一切の設備を完くしたる重油燃料船を配置したり、ニシモノヴエロよりアストラハンに至る三等船賃僅に六留五哥なりといふ

○錫蘭島の茶

錫蘭島の繁榮は全く農産による。英帝國

内に於てこの島の如く經濟的産物の種類豊富なる所極めて稀である、たゞしこの島は熱帶土壤で概ね貧弱であるが、氣候と雨量と灌溉の法がよいために農業が發達した。この島のシンハリス族及タミル族は元來土地耕作者で、小農村が多く祖先傳來の土地に住し原始的農具で自活してゐる。土民の家は高臺にたちめぐらすに農園を以てし、ココ、ナツト、アレッドフルーツ、マンゴー、オレンジ、アレカ、タマリンド、ホメグランド、パイナップル、バナ、等の果樹をつくりヤム芋、サツマ芋、カツサザア、茄子、パンダカイ、豆、ゴーズ、チリー等を野菜とする、米作が主要農等で、米のとれぬ乾燥地は人口自から稀少である。

貿易品としては茶がある、英國に茶の輸入されたのは西暦千六百八十七年、はじめ東印度會社が五千封度を送くつたに始まる、十八世紀のはじめ其輸入税は二〇〇%といふ驚くべき贅澤税であつたが東印度會社はこれを印度に試作することを始めた。千八百四十年初めて印度アツサムから二百株をこの島に入れた一千八百七十年珈琲が虫害をうけたので、この島は一轉して茶の園になるやうになつた。一九二六年の耕地面積は四四〇、〇〇〇噐である。この島では茶は平地から七千呎の高地までつくられるが、高度による品位の差がある低地産は強烈にして香氣を欠くが産額が多い。高地は品質香氣一般によいが産額が少い。三月―五月と十月―十一月の二期に發育が旺盛である。乾燥が僅に數日つゞいても作物が面目を一新する、肥料の加減と栽培で平均産額の増進をはかつ

てゐる。タミール族が勞働に従事してゐる。輸出額年約二億封度で目下本島第一の産業である。香氣がよく混用茶として有利の性質を有するので重寶される。

茶のつぎは錫蘭の護謨産業である、肉桂、カ、オ、ダムバラの烟草、椰子等すべて良品の名がある。

○ラテックス(護謨乳液)

ラテックスが貿易品として注意に上りたるは、一九二二年英國に於て、護謨液をバルブに混入して製紙する方法、即ラテックスペーパーの發明されてからのことである。一九二二年以後馬來半島からの輸出は年々増加し、一九二四年には八〇萬ガロン百二十五萬弗、一九二六年には二百萬ガロン六百七十萬弗にも上つた。恐らく液の需用はペーパーのみでないから將來益々發達するらしい。目下米國向がシンガポールからの全輸出の九割見當である。之を送るために護謨乳液中に三%乃至三五%のアマモニア溶液を混入するのであるがどうもくさくてこまるし、且その價が高いので代用品を工夫するがまだ出ない。そこでラテックスの水分を去つて乳末として輸送するものがある。ホプキンソン式と稱し米國ゴム會社のみがやつてゐる。乳液中には一ガロンの中に護謨三封度半を含むといふ標準である、本邦へも相當に輸入され、三井、三菱、千田商會等の手で取扱はれてゐる。

○米國婦人向きキモノ

最近數年來米國の都市生活様式が獨立家屋よりアパートメント住居となり、室内裝飾品其

他一般に簡素となれる傾あり我輸出品も従前の如く穿積大にして比較的今日のものよりも、粗雑低廉の品賣行多く、従來米國婦人の居室着ネグリッシーとして用ひられたる所謂本邦キモノも、以前の如く、全身丈に色合も黒、赤、青等に金絲等にて悪どく花鳥其他有ふれたる刺繡模様を付けたるものは殆ど跡をたち、亞で一時支那趣味が迎へられ支那婦人服が流行したるも、やはり日本キモノなる語が米國婦人の腦裏に普及し居りて、兩三年前には所謂ハツピコートとて海水着に流行したるハツピも其後本邦當業者間無益の競争の結果、モスリン製にて小賣値段十五、六弗にて相當利益ありしものを、遂に七、八弗に下落し、値下と共に品質低下し、頗る不評となりて、本年度には需要も全く無くならんとしつゝあり。しかし近頃ハツピコートの変形物として以前海水着に着用したものが、やはり居室着ネグリッシーとして迎へられ、近來は仲仕の法被風でなく、薄物紋羽二重に友禪模様染抜、色富土紺の裏付にて小賣値段十二弗五十仙乃至三十弗位（本邦仕入値段十一、二圓乃至二十五圓）のものシャパンニースドレスとして賣捌かれ、シカゴの有力百貨店にては本夏のみにも仕入高二萬枚に達せりと稱して目下大的に賣出しをなし居れり、しかし我國のかうした生産品は規格統一が六ヶ發、往々にして粗品を混入するので、之を本邦商人の不徳義として遂には排斥をうくるの恐あり、しかし今度のハツピコートより變形したるキモノは丈短の當國一般の服裝と照應し、各年期節流行色合及意匠、模様地質巾丈、仕立等の點につき

當路者の注意を拂はんには、かの佛國の巴里衣裝がフレンチドレスとして歡迎せらるゝが如く、本邦獨特の地歩を占むる見込ありといふ。

○セルボ、クロアイト、スロヴエーヌ國の海運業

アドリアチックの東岸の中クレス、ロシニユ、サンビエール、及ラストゾアの諸島並ザダル市（以上伊領をのぞき海上に散在する諸島嶼と共に塞國領となる）直徑距離五百五十浬、海岸線全長五千百七十二浬、往古よりこれをダルマチア海岸といふ。抑同海岸が尙舊澳洪國の支配下にありし頃は同國の海運政策上よりトリエスト及フューメにアドリア海交通の中心を置かんとしたるため、右東海岸は全く顧みられず、自から發達の見るべきものなかりしが、塞國がこの地方を併有して後茲に海運事業を創め、海港を設置し航路を開くために莫大の困難に遭遇せり、第一に伊太利軍の占領これなりしが一九二二年同國軍撤退後いよゝゝ海運施設を實施するに至れり、しかも其後よく短時間に相當の發達をとげ、造船工場としてはスーシヤグにユーゴスラヴィア造船株式會社出來してクラリエヰイツ工場を有し五千噸級の商船軍艦を建造しうべく一萬八千噸迄の工場能力あり、次にスプリットにはマルジャン造船會社ありて四千噸の船渠及修理事業。シュク造船會社は同じく三百噸級以下の木造船船の建造、修理に従ひ、トロシル造船所も同様木造船をつくる。其他コゾオ、サンマルタン、デボロ港等には二百五十噸級の木造船船の建

造修理を行ふ。かくて一九二六年には同國の登録總噸數船舶合計二二四、七一八噸に上り、外國航路に從事するもの蒸汽船三十七隻八萬噸海員九二八人を算し大沿岸航路（アドリア海より地中海、黒海、アソフスエズに至る一切の海港を包み）蒸汽船八隻二萬五千八百噸小沿岸航路に從事するもの蒸汽船八二二隻二萬二千萬に上り、アドリア海及その河川の運送に從事せり其海員二二四四人その他船舶總數四、八二七隻一萬噸、漁船五、二三二隻一萬噸漁夫數一六、七八三人に達せりといふ。

○蘭領東印度鐵鑛

蘭領東印度に於ける鐵鑛調査をなした和蘭デルフト高等工業學校長カロン氏によれば其の埋藏量は約十五億噸で就中ホルネオ島、セレス島は其の大部分を埋藏して居る。將來アジヤの工業は前記二島に根據を置くものと見られる。又ファン・パエルテン氏の語る所に據れば印度特にセレス島及ホルネオ島に於ける原鑛は品質良好で筒筒溶鑛爐を使用し原鑛と小粒の石炭とを使用して抽出する法がよいと述べてある。其の原鑛は試験の結果非常に良好なものでスンガイ・ドゥワ産の如きは四十八パーセントの含有量があり研究次第では六十四パーセントの鐵を採る事から出来るといふ。

之等良質の鐵鑛が多量に産出する同島に於て、石炭も安價であるから將來の有望を述べてある。尚カロン氏の調査に據ればセレス島には多量のコッケル原鑛が埋藏されてあるが

其の含有量は二乃至三パーセントで工業的價値が淡く現在實用の域を越行かない。（臺灣時報）

○加奈陀帝國公使館開設

過般加奈陀政府を經由して彼我の間に公使交換を行ふことを提議して來た。加奈陀は太平洋を距つる我隣國にして、以前より關係深く最近交通貿易上に於て日増に交渉關係盛となりオタラの總領事及バンクーパ等の領事のみにては、事足らない様になつて來たので我國に於ても其の必要を認め遂に其の提議に同意し過る七月二十日から愈々オタラに開館した。此と同時に從來オタラの帝國總領事館は閉鎖した。

因に加奈陀と現在公使を交換してあるのは、米、日、佛の三ヶ國である。（吉田）

質疑應答

問 西印度諸島の成因について 山形最上郡戸澤 S 生

答 西印度諸島をみると、そこに三つの著しき皺曲山脈が見出される。北方の山脈はキューバ島の西北部からユカタン半島へかけて沈降した山脈によつて連絡するものである。中央の皺曲山脈はキューバの Sierra Mesera 山脈が代表する、この山脈も亦英領ホンチユラスから沈降した山脈によつて跡つけられる。この沈降山脈の海上に出た一つに Grand Cayman 島がある。南の山脈は Jamaica 島をつくるものでこれ

又ホンチユラスから引きつゞいた沈降山脈の海面に現れたものである。以上の三山脈は之を *Hippania* 山系と稱してホルトリコ島に集まつて一つの高原になる。してみると中央アメリカとこの大アンチル列島とは直接に地続きであつたことになる。蓋し中米もこの列島も共に太古代の陸地の残塊であつて、この太古の地塊は現在よりも西及東の方にずつと広がつてゐたのが、第三紀に陥没してカリビアン海となつて陸と島とにわかれたものである。

次に小アンチル列島をみると、これはホルトリコからトリニダト迄一大沈降の彎曲山系の海面にのこつたものであるが、普通に北方をリーワード群島、南をウキンドワード群島にわけるけれども地圖を見ると明かなやうにこの小アンチル列島は二列である。東の方の列は石灰岩で、西の列は火山岩である、佛領グアテレープ島を見ると中央がくびれてゐるその線の東は石灰岩で西は火山岩である。この火山島列は往々にして驚くべき爆發をすることがある。マルチニグ島のモンブレ、リサンバンサン島のラサフリエール等の噴火がその例である。バハマ群島は全く西印度陸地から別に出来た珊瑚礁である、その數凡三〇〇〇、フロリダの南の沖にある陸塊礁地の上に灣流が通つて温いから、かうした礁島が出来たと考へられる、詳説は他日本誌上に於てのべるであらう。(F)

問 米國中西部の農況を問ふ 大阪 I 生

答 米國中西部農業地域中俗に玉蜀黍地帯と稱せらるゝは

質疑應答

ミシガン州の東南隅オハイオ州の西半、インディアナ並イリノイ兩州の北三分の一、アイオワ州の殆ど全部、ミズーリ河以北のミズリー州全部、カンサス州の東北沿境地方ネブラスカ州の東南部、ミネソタ州の西南部を占むる一帯の地域、即ちオハイオ州の中部より以西カンサス、ネブラスカ兩州の中部に至る長さ九百哩幅百五十哩乃至三百哩に及ぶ總面積一億五千萬英町に互る地域を指し、同地方は乾燥畑(ドライフアーム)として名の如く特に玉蜀黍の耕作に適する。

一九二三年二七年の五年間の收穫平均は二十七億五千萬アツシエルに上り、其耕地面積全米耕地の八分に當り、遂に棉花及小麥の其を凌駕し、其收穫は米國農産物の産額の三分二、全世界玉蜀黍産額の五分の二に達した。但し玉蜀黍地方だからといって、玉蜀黍のみをつくつてはゐない。燕麥、小麥を主とし牧畜も盛んで米國養豚の三分二、牛の四分の一を占め、家禽類及卵の産出の五分の二に當ると謂ふ、最近五年間の産額を表示する。

	一九二三	一九二四	一九二五	一九二六	一九二七
豚	四、六〇	四、六〇	七、四七	四、七三	五、四四
乳牛	九、五三	九、六九	九、六六	九、六五	九、六四
其他の牛	一、四、六九	一、四、六〇	三、四八	三、七〇	二、三〇
玉蜀黍	二、一〇七、二四	一、四、四〇、一七	一、六、八二、八五	一、七、九七、〇〇	一、七、三三、八四
燕麥	八、九、三二	九、七、三三	一〇、〇〇、〇〇	七、九七、九六	七、三三、八四
小麥	三、五、七七	四、三、四九	二、九、三四	三、七、〇六	六、八、五

但 (單位千弗) (玉蜀黍、燕麥、小麥はアツシエル)
 歐洲大戰當時の好況時代著しく土地の投機熱を刺戟し、抵當及銀行貸出増加し、地價高騰し一九一九年には其總額に達せるが、一九二〇年一九二一年に掛け反動的不景氣に伴ひ暴落底値をなせり、一九二四年以後一般産業は夫々恢復の緒につきしも耕地の地價は一九二七年の春迄引つゞき下落の傾向を保ちしが、この暴落と相俟つて農産物市價の低落ありて農業に大打撃を加へしかど、戦後移民の制限に伴ひ、農業は機械の使用により之を補ひ種子改良家畜の改善等の方法にて農夫一人當りの生産量を増加することゝなれり。
 玉蜀黍は主として家畜飼料に供給せらるゝものなれば近

年自動車の發達に伴ひ、馬匹の使用を減少したるために自らその需要を減じ一九二七年度に玉蜀黍地帯の耕地千五百萬乃至二千萬英町は他種の耕作に向けらるゝに至れり、之れと同時に面白きことは元來玉蜀黍の主要産出國としてはアルゼンチン、ダニユア諸國、露國、米國なるが就中歐洲ダニユア地方に於ける養豚業は玉蜀黍を以てその食糧とせるが、米國移民制限のため、國內に留まらざるを得ざるに至りしダニユア、獨逸、丁抹等の農民は自から養豚業に向ひその結果近來著しき發展をなせしめ、今日にては米國の豚肉に對する有力なる競争國となりて出現するに至れること也。(F)

地球圖書の葉 (十四)

□譲り受けたし

- 一 地質學雜誌、第二十八卷第三百三十二號—第三百三十九號 第二十九卷、第三十卷、第三十一卷
- 一 高知阿帽地質說明書 (小川博士)
- 一 現代之科學、第六卷第三號 (大正七年) 第八卷第三號 (大正九年)
- 一 地質要報、第十九卷 (明治三十九年第一號)

右希望者 名古屋工藝學校 耕崎 正男

□譲り受けたし

- 1 震災豫防調査會報告、八十五號 (大正七年)
- 2 地質調査所二十萬分ノ一地質詳圖中左記のもの
 角島、福岡、大分、

右希望者 福岡縣八幡市中央區八幡高等女學校 加來 利治